

【エントリー情報】

自治体名：練馬区

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：練馬区立豊玉第二小学校

ご記入者：関川 卓（せきかわ すぐる）

【設問】

① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

（1,500 文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

本校で目指している目標（ビジョン）

R 5 練馬区立豊玉第二小学校 学校経営計画

教育目標

人間尊重の精神を基調とし、小中一貫教育 9 年間で目指す豊かな人間性と創造性を備え、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる心身ともにたくましい人間像の実現を目指し、次の目標を設定する。

【目指す 15 歳の姿】

知性にあふれ 正しく判断できる人

心豊かで 品格のある人

健康で 行動力のある人

【教育目標】

思いやりのある子ども・・・人の心の痛みがわかり、思いやりをもって人や物と接する子どもを育成する。

進んでやりぬく子ども・・・主体的に考え、課題を見つけ、粘り強くやり遂げる子どもを育成する。

じょうぶな子ども・・・すすんで運動に親しみ心身を鍛え、健康な体づくりに努力する子どもを育成する。

よく考える子ども・・・学習や生活に主体的に取り組み、問題を発見し、よく考え解決しようとする子どもを育成する。

目指す学校像

（1）児童が満足する学校・・・自分のよさを知り、集団の中で自己肯定感がもてる。

自主的・自治的に自分たちでよりよい学校生活をつくる。

（2）教職員がやりがいをもつ学校・・・一人ひとりが職責を自覚し、力を発揮する。

組織的に教育活動を進め、自分の貢献の成果を実感できる。

（3）保護者が安心する学校・・・学校の教育活動が見え、子どものよさを知り、成長を実感できる。

学校と保護者の相互理解・協力が十分に図られている。

（4）地域が誇りに思う学校・・・これまでの歴史や伝統を大切にし、さらに進化しようとする。

学校・地域が連携・協働して教育を推進する。

教育目標と目指す学校像を受けて、管理職が示す中期目標の中に、以下の2点が示されている。

(1) 児童が満足する学校

共に高まり合う、特別支援教育の充実

・授業のユニバーサルデザイン化を目指し、ICT 機器の活用を図り、授業改善を推進する。

(2) 教職員がやりがいをもつ学校

職員が生き生きと働くことのできる職場づくり

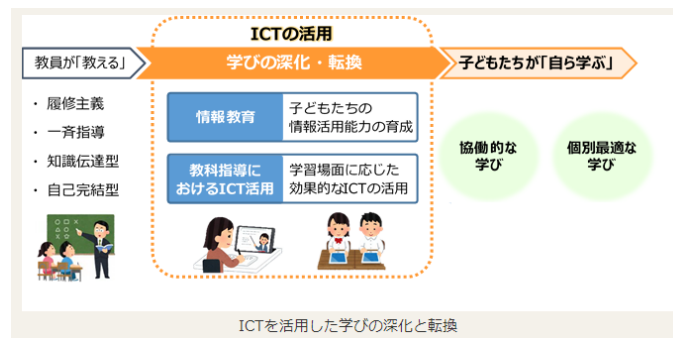
・ICT機器を活用した校務の効率化と見直しを図り、教職員が心身共に健康で、より質の高い教育を行えるようにする。

目標に至った背景・想い

練馬区が目指す ICT を活用した「新しい学び」について

練馬区では、教育と子育てそれぞれの分野における施策の目標や取り組みの方向性を体系的に整理した「練馬区教育・子育て大綱」において、「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備えた子どもたちの育成」を目標として掲げています。

子どもたちが困難を乗り越え、様々な課題を解決するためには、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけるとともに、GIGA スクール時代の「新しい学び」の在り方を念頭に、教育委員会と学校が ICT を活用して子どもたちのどのような力を伸ばしていくのかについて共通の認識をもち、一丸となって取り組みを進めています。



(引用 練馬区ホームページ)

(<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kosodatekyoiku/kyoiku/gakko/kyouikuict/narimakukyokuict.html>)

練馬区の施策を受けて、本校では、授業実践での ICT の積極的な利活用（通常学級、特別支援学級ともに）や授業実践以外での ICT の利活用と教職員の働き方に ICT を活用したエッセンスを少しずつ浸透させていくなどを行っています。

そこで、大事なことは、教育の本質をしっかりと見極めながら、中長期的な形で確かなツールとして ICT の活用をしていくことであると考えます。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。

（1,500文字以内）

目標（ビジョン）に向けた具体的な学校全体の取組

A. 本校では、平成 29（2017）年度～平成 30（2018）年度に練馬区 ICT 環境整備計画のモデル校になってから、ICT 機器やデジタル教材を整備すると同時に、ICT をどのように活用していくことが必要なかを問い続けてきました。

そのようななかで、教職員が ICT 研修を校外や校内で行い、学んでいくことは必須。と同時に、子どもたちも ICT を活用するなかで試行錯誤する時間が必要なのではないか？ということから、教科外の時間に「ICT 活動」という名称で年間 10 回を位置付けました。（現在も、年 4 回を位置付けて実施）

(2) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の年間授業時数等配当表

領域	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
各教科	国語	322	327	252	253	179	179
	社会			72	94	102	107
	算数	143	182	179	180	179	179
	理科			93	110	110	110
	生活	108	108				
	音楽	72	72	62	62	52	52
	図画工作	72	72	62	62	52	52
	家庭					62	57
	体育	108	108	108	110	92	92
	外国語					70	70
	教科計(ア)	825	869	828	871	898	898
	特別の教科 道徳	34	35	35	35	35	35
	外国語活動			35	35		
	総合的な学習の時間			70	70	70	70
特別活動 学級活動	34	35 1/3	35 1/3	35	35 1/3	35 1/3	
領域計(イ)	68	70 1/3	175 1/3	175	140 1/3	140 1/3	
小計(ア+イ)(①)	893	939 1/3	1003 1/3	1046	1038 1/3	1038 1/3	
特別活動 児童会活動	0	0	0	0	11	11	
特別活動 クラブ活動			0	10	10	10	
特別活動 学校行事	52	51 2/3	52 2/3	58	76 2/3	77 2/3	
特別活動計(学級活動+児童会活動+クラブ活動+学校行事)(②)	52	51 2/3	52 2/3	68	97 2/3	98 2/3	
未配当時数(③)	4	4	4	4	4	4	
総時数(①+②+③)	949	995	1060	1118	1140	1141	
備考	・1単位時間は45分とする。・4年生以上は、年間10回のクラブ活動を実施する。 ・プログラミング教育のC分類を、各学年4時間実施する。						

そこでは主に、プログラミングやタブレット P C の操作の習熟のための時間として設定しています。

練馬区では、「情報活用能力#練馬区モデル」を作成し、情報活用能力の育成に取り組んでいます。

このモデルは、児童・生徒の発達段階を踏まえ、ステップ（学年）ごとに育成を目指す資質・能力と学習内容を体系的に整理しています。

(<https://www.city.nerima.tokyo.jp/kosodatekyoiku/kyoiku/gakko/kyoikuict/narimakukyouikuict.files/nerimakumoderu.pdf>)

こちらを参考に、「ICT 活動」の時間で行うことやカリキュラム・マネジメントを行うなかで、教科等横断的な学習として ICT の利活用を位置付けていくことを行っています。また、ICT 支援員の方と連携して、ICT が苦手な先生方や児童・生徒のサポートなどもコミュニケーションを図りながら推し進めています。



B. A での ICT 環境を基盤として、一昨年度の校内研究では「自分の考えをすすんで伝えようとする児童の育成 ～ICT の活用を通して～」、今年度の校内研究では「自分の考えをすすんで伝えようとする児童の育成 ～授業のユニバーサルデザイン化を目指して～」とし、授業研究を進めています。

児童がタブレット活用に慣れてきたなかで、次のフェーズとして、どのツールやアプリを使って、教科や単元の内容を深化させていこうかという壁にぶつかりました。

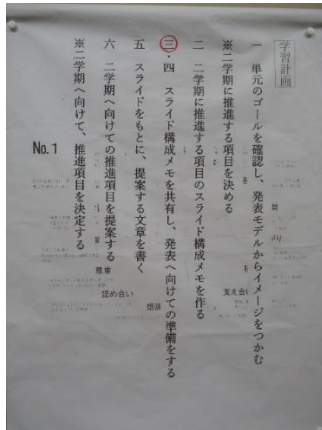
校内研究では、

- ・1年生では、実物投影機にイラストやノートを写して説明するという基本的なことからスタート。
- ・2年生では、道徳の学習で、事前アンケートをミライシードのオクリンクを使い、実践。
- ・3年生では、国語「山小屋で3日間すごすなら」と題し、ミライシードのムーブノートを活用し、自分の意見を各班の広場に送って、画面上で友達と考えを共有し、話し合いながら比較・分類。
- ・5年生では、2つの事例。社会「水産業のさかんな地域」の単元の導入で、水産物が日本の近海で多く獲れる理由を、jamboard に自分の考えをまとめ、共有し、発表。国語「みんなが過ごしやすい町へ（学級へ）」と題し、学級力向上プロジェクト（田中博之先生）を活用したアクションプランの提案文をスライドで作成。

・特別支援学級では、国語「かさじぞう」の場面のイラストをミライシードのオクリンクを使い、イラストを操作しながら様子や変化を捉える。

など行ってきました。どれも ICT 活用の要素を入れながら、ICT を活用する必要感や個人差、本質に迫るためには、無理に活用しなくてもよいのでは？ など課題も多く見られました。しかしながら、子どもの考えや思いを最大限に表現できる効果的なツールとして、ICT を利活用していくことの一定の成果もあげました。





今年度は、ICTの効果的な活用場面に授業検討会で精選し、ユニバーサルデザインの視点で活用できる/できないを思考しています。

C. 授業実践以外の活用では、生活指導の1週間の目標の振り返りにICTを活用しています。週の生活目標について forms でアンケートを取り、達成できなかった理由やどのようにすれば意識できるのかなどの声から、教職員が次週の目標を設定していく流れを2年前から取り入れています。

教師主導で目標を設定するのではなく、児童・生徒の現状や振り返りを通して、共に目標を意味のあるものにしていくことを実践しています。



③ **(3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)**

D. 目標（ビジョン）に向けた学校全体の取り組みの中で、職場づくりにICTの積極的な活用が示されて

いて、働き方の改善に向かっています。

○校務改善の案を forms で常時アナウンス

校務改善を年度末に見直していたら、実は改善されずに同じことを繰り返してやっていたということが

学校教育の中にはたくさんあります。この現状を打破しようと、7月から校務改善のアンケートを作成し、掲示板で常時アナウンスできるように努めました。その都度、気づいた時に入力し、短期的、中長期的に改善と分けて考え、変えられるところは、週に1回の管理職と主幹教諭の話し合いを通して変容させていく。このようなサイクルを今年度試みており、ICTを活用してのアンケートが働き方を見直すものになっています。

Classroom > 教員事務連絡

ホーム ストリーム 授業 メンバー 採点

カレンダー

指導科目

チェックが必要な課題

R4校内研究

第4回子ども夏祭り実行...

R5三校児童会・生徒会交流...

教員事務連絡

R5高学年交流

R5代表委員会

生活目標アンケート

ワタリカツマサ 2023/11/01 (最終編集: 2023/12/16)

R5 来年度に向けて校務改善アンケート
<https://forms.gle/t5NwzSayrk8XXVv69>

無記名です。

気がついたときにどんどんご記入よろしくおねがいします。

クラスのコメント 1件

ワタリカツマサ 2023/11/01
 回答集計
<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1bh13eXEPiJSHgmbcGsqLqogtj2W7CFCJlyXyNyVSuoc/edit?resourcekey#gid=123831972>

クラスのコメントを追加...

時間割・生活特長について	生活指導・校則について	特別活動について	クラブ・委員会について	儀式行事について	成績・通知表(面談)について	自由意見
1学期の終業式の時刻は、通常4時間ではなく、通常3時間かまたは、8時間4時間にしてほしい。通常4時間で下校すると、子供たちが家に着く時間が13時近くになってしまう。予定の中、下校するは大変である。	生活指導夕会のもちかたについて、各クラス毎週やる児童をとりあげていくのはどうでしょうか。低学年と高学年に分けて実施しても良いと思います。特に何も無ければ、特に無いのも良いので実施して共通理解をかりたいと考えます。			終業式は、8時間にして1時間目に終業式を行うのよいのでは？授業時間に余裕があるので行ける？やることなくて困っている学年もあった。	1学期の終わりの週当たりをB5時間にして、面談(もしくは3者面談で1学期の振り返りを子供にさせ、夏休みに課題をもたせる)と2学期(12月にB5時間)には個人面談にする。所見は、3学期の通知表に1年間の成長を記述(それを訂正して事後へ)保護者は文章よりも書いってほしいほうが正確に情報が伝わり安心するのでは？	7月の面談を学期中に行い、夏休みに入ってからプールを行い、7月でプールを閉める。8月9月の維持費や努力を減らせるのでは？
授業と授業の間に5分間の余裕は10分間にできないのでしょうか。8時間の日の休みは中道で過ごすことにはできないのでしょうか。基礎学習をモジュールとして時数でカウントすることは可能でしょうか。				儀式行事については、体育館や校庭など、集まって行うのはどうでしょうか。やはり儀式行事は全校児童及び職員が一丸にして行うものであり、厳かな雰囲気や規律などを学ぶ大切な機会だと考えます。特にコロナ世代でそのような機会や経験が少ないからこそ行いたいです。	所見が無くなり、面談に代えることは働き方改革の意味でも良かったですが、やはり面談で保護者の方とお話しして成長を促したほうが良かったと思います。また、面談期間と水泳の期間は選ばなければならぬと思います。	夏休みの水泳学習について、これだけ暑いのに泳ぎ指紋も31を越えてしまっ日がほとんどで実際には中止になってしまう日がほとんどであった。水泳学習を、体育学習委員会、新体力カーストの日程との関係もあると思うが、数週間早めて7月で終わりにしたらどうかと懸念。
	ノーチャイムの音楽を伝えて児童に守らせる必要がある。給食の時間に教室の外に不必要に出歩いたり、休み時間になっていないのに遊んでいる児童が少数いる。今後各学年で継続して指導していきたい。			入学式や卒業式の装束で、体育館入り口閉りや廊下、空廊の壁での装束は無くしてはどうか。予算もかかる上に、装束を毎年作成したり保管したりすることや難く、倉庫保管中に汚れる。それよりも体育館で1人1人が自分		1年生の1学期の始めの12週間、保護者の方から記録のポランティアを募ることはできないですか。
	8時15分の倉庫管理からの挨拶は必要で					調査をコピーして提出する必要があるのでしょうか。会議は、担当が事前にc4tなどを活用して配布予定の資料や情報の提案をしておき、会議中は資料の内容について詰めておくことは行わず、質問や協議内容、共通理解をしておきたいことのみを扱うのはいかがでしょうか。その分、各自が資料を読み込んでおくという形にして、会議時間の短縮を図りたい。

○保護者会のハイブリッド化

本校では、年に3回ある保護者会。コロナ禍でのオンライン活用をヒントに、保護者会の実施をハイブリッド化しました。保護者アンケート(forms集計)をもとに保護者の多忙感や負担感を少しでも解消しようとオンラインでの参加も可能にし、ICT活用が効果的に働いています。



- 宿泊行事の保護者説明会の動画配信&新1年生保護者会をCANVAのスライドで作成
保護者会のハイブリッド化に伴い、各行事や説明会などを動画で撮影したり、スライドで作成したものを、クラウド上に入れて、何度も繰り返し見直せるようにした。参加不参加の有無に限らず、クラウド上に残しておくことで、保護者の対応可能になりました。また、同じことを説明しなくても働き方も見直すことにもつながっています。

入学式について

プレゼンテーション 1920 px × 1080 px

作成者：ワタリカツマサ
作成日：2023年10月25日

[編集](#)

[コピーを作成](#)

[このデザインを共有](#)

○アンケート類の ICT 化（学校評価、行事、個人面談、出欠フォーム）

今やどの学校でも行われ始めている ICT によるアンケート。手書きで集めてきた時よりも回収率は 2 割弱下がったが、締め切りを連絡メールで促したり、どの方法も ICT に移行したりすることで、慣れてくると考える。また、ICT を活用することで、カテゴリー化や日程調整などがスムーズに行えることから、生産性が上がり、時間を捻出でき、働き方にもつながっている。



児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果

1人1台のタブレット端末が配付されたことで、学びに彩りが加えられたと考えます。初めは、何か事象に対して調べるための道具に過ぎなかったが、デジタル教材や学びのアプリを活動に取り入れることで、学び方にそれぞれの色（個性）が加えられるようになってきました。

例えば、個人で学習のまとめや提案文、意見文をスライドでまとめる作業では、ベースとなるスライドを作成し、教師のモデルを提示する。子どもたちは、見通しをもとに、「こんなスライドを加えてもいいかなあ」とか「こんな工夫をすると伝わりやすくなりますか？」など創意工夫を学習していく。これこそが学びであるし、発展的な学びであると感じます。そんな場面では、集中し、没頭して画面に向かっていきます。とてもいい光景です。このように積み上げていくことで、精度の高い資料や作品が生まれ、成果となり表れていきます。

また、グループ学習で、自分の意見が反映されたり、友達の考えを受け入れたり、グループで考えを練り上げたりする際も ICT の活用が効果的に働いています。声大きい人の考えや意見でつくられてしまいがちであった学級の空間が、クラウド上では、自分の意見が認められ、価値付けられます。そのことが相手を受け入れることにつながり、ともによりよい考えを見いだしていこうとする傾向にあります。しかも、操作性が容易で、みんなの考えを形に残せる成果物にもなります。

このようなことから、1人1台のタブレット端末を活用し、ICT を学びに取り入れていくことで、児童・生徒が主体的に取り組みやすくなり、学びの過程で対話が自然発生的に生まれ、継続的で効果的に活用することで、学びを深くしていくものになると考えます。



これらの変化をどのように評価されているか

それぞれの学級による差異はあるが、写真や動画に撮り、クラウド上に保存することで、評価の対象にしている教員が多い。また、その様子を学級通信で保護者へ発信したり、学校HPにアップしたりしてアウトプットも行っている。クラウド上にある成果物は、学年を超えて引き継いでいけるように、自治体で活用しているソフトを活用するのか、学習教材のアプリを統一して保存していくのかは、今年度の校務改善案で検討事項となっている。

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立つ場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

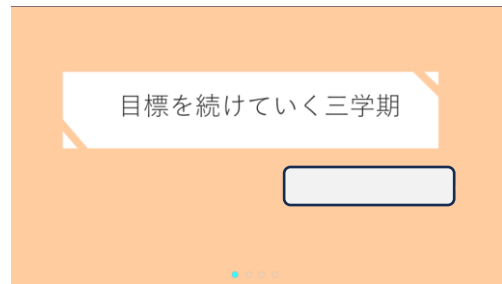
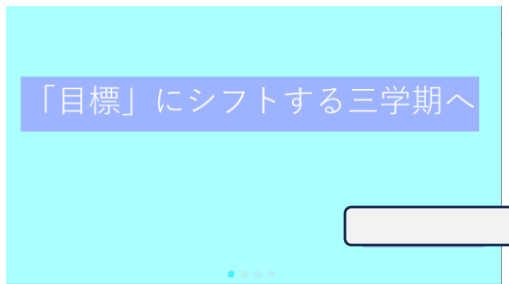
※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

今年度は、GEG 練馬に11月から所属し、ICT活用の場を広げていこうと校内でも呼びかけて、学びの機会をいただいています。GEG 練馬でのミライシード活用の実践事例を学ばなかで、オクリンクを使った実践をしました。

12月に国語科「あなたは、どう考える」(光村図書)を主教科として、社会「未来とつながる情報(情報を伝える人々とわたしたち)」(教育出版)、学級活動「学級力向上プロジェクト」(田中博之 金子書房)を教科等横断的な学習として行いました。単元のまとめに、ミライシードのオクリンクを活用して、スライドを作成しました。

①「あなたは、どう考える」では、意見文を書いて読み合い、よいところを見つけようという単元のめあてをもとに取り組んでいきました。1年間かけて行っている「学級力向上プロジェクト」の活動(学級力レーダーチャート)を題材にして、4枚のスライドに仕上げることにしました。その1枚目がこちらです。

※色や字の大きさ、背景を容易に変えることができる操作がわかりやすい!



②2枚目のスライドには、学級力レーダーチャートのどの項目に焦点化して、3学期に重点的に推し進めたいのかをこれまでのレーダーチャートの傾向から自分で考え、1つに絞って行きました。(参考の2人は「目標」の項目を選択)

※私のモデル文に貼り付けたレーダーチャートを送れば、すぐに自分のスライドに反映しやすい!

※目立たせたい箇所をペンやマーカーなどで簡単に示せる!



③3枚目のスライドは、意見文を書いていきました。【主張】⇒【根拠、理由】⇒【方向性や想い】という柱で書き上げました。

※マーカーの機能を使い、要点や伝えたい箇所を彩ると効果的!

私は、三学期に向けて「目標」を続けていくことを項目にするとよいと考える。(主観)

二学期に行ったテストの平均点を上げる取り組みでは、すべてのテストで全国の平均点を超えることができた。(根拠)

「目標」の数値を上げるためには、たくさん話し合うことが必要だが、その中には「認め合い」を必要にさせてくる。「仲間」をも上がっていくだろう。よって、「認め合い」をし、より良い目標を立てていきたい。(三学期への方向性)

私は、三学期に向けて、「目標」の項目を続けていくのが良いと考える。

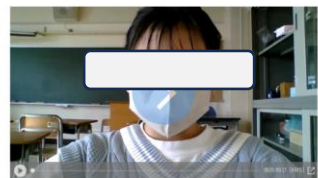
なぜなら、1つでも目標があると、頑張れるからである。

そういう意識が高まっていったときは、「頑張ってる良かった」など、嬉しい気持ちになれた。

このことから、三学期も、二週間目標をチャレンジして、リーダーチャージを引き上げたい。

④ 4枚目のスライドは、意見文を読み上げている動画を自分で撮影し、挿入しました。「未来とつながる情報（情報を伝える人々とわたしたち）」の社会科の学習で、放送局がつくるニュース番組ができるまでの制作過程やニュースにつながるまでのそれぞれの役割について学びました。このことを活かして、最後にニュースキャスター（情報の送り手）になったつもりで、意見文に示した想いを学級のみんな（情報の受け手）に伝えていくことをしました。情報の有効活用について、それぞれの立場から多面的に考えていくことにつながりました。

※動画を撮影したものがすぐに反映できる接続性のよさがある！



小さな実践ですが、児童が集中して取り組んでいく様子が見られました。使い慣れていくと、様々な組み合わせや活用の仕方を児童が考え、学びを創っていくツールになることを強く感じました。

教務主任としては、各教科や特別活動、行事など年間のカリキュラム・マネジメントを教科等横断的に作成していく際に、ミライシードの実践事例も「ここで使う！」や「こんな活用もできる！」などを添えて作成していけると使う人の輪が広がっていくように感じました。